伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第71号
発行日 :平成28年 11月 1日
発 行 :伊丹市文化財ボランティアの会
発行所 :伊丹市千僧1丁目1番地
伊丹市教育委員会事務局内

水と緑と文化財を巡る

市内文化財めぐり歴史ウォーキング

いよいよ秋のガイドシーズンが開幕。本年度2回目の市民ガイドを9月 25 日(日)実施しました。一般参加 11 名と会員 19 名で総勢 30 名、コースは以下のとおりです。

有岡城跡→猪名野神社→緑道→ 和泉式部の墓→辻の碑→教善寺→臂岡天満宮→緑ヶ丘公園→伊丹廃寺→瑞ケ池公園(解散)

当日は雨は降らないものの曇りの蒸し暑い天候、ガイド後半にはベンチに座り込んで汗を拭いながらガイドを聞く人がいました。

有岡城跡・・・戦の砦と庭園付き居館

本丸は東西 150m 南北 200m、面積にして3万 m^2 の規模でしたが、明治中期の鉄道工事で東半分が取り壊されました。

有岡城の特徴として ① 最古の石垣が残っている ② 戦の拠点としてだけでなく、村重の庭園付きの居館である2つの機能を備えている③ 町全体を堀と土塁で囲んで防備を固めた惣構えの構造としたことの3つが挙げられます。

石垣前で説明

天正6年(1578 年)村重は信長に反旗を翻し籠城、信長方の大軍に包囲されておよそ 10 ヶ月の攻防の末、天正7年(1579年)に落城。その後天正 11 年(1583 年)に廃城になりました。

稀しくも落城から 400 年後の昭和 54 年(1979年)に有岡城跡は国の史跡に指定されました。

教善寺・・・天誅組の志士が隠れ住む

寺伝によれば久遠山教善寺は明応5年(1496年)に創建された浄土真宗興正派の寺院です。市有形指定文化財の本尊阿弥陀如来立像は、伊丹廃寺ゆかりの寺が信長の有岡城攻めで焼失したときに、本尊を教善寺に移したものと伝えられています。

また国学者で歌人、天誅組の挙兵に参加した伴林光平が安政3年から4年間に亘って隠れ住み、その間伊丹、池田の町衆に国学や歌を教えていました。

瑞ケ池公園・・・里帰り桜とユーカリの巨木

伊丹の東野村が育てた台木を用いた桜の苗木を明治 45 年、日本から米国へ寄贈しました。

これの90周年を記念してワシントンの桜の苗木(里帰りの桜)が日本へ贈られました。

瑞ケ池公園に植樹され、毎年市民の目を楽しませています。

瑞ケ池公園でひときわ目立つユーカリの巨木について説明がありました。ユーカリは成長が早く、また種類が多く瑞ケ池のユーカリの葉はコ

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。
市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。
(☎:072-784-8090)

アラの食用にはならない別の品種だそうです。

あれがユーカリの巨木です

最後に 11 月23日の次回市民ガイドを予告して終了、解散しました。水曜班の皆さまどうもお疲れさまでした。　　（松田記）

次回は 11 月 23 日（水・祝）に予定されています

黄檗山萬福寺と私

岡井　祥子

養成講座のときの講師の話で「徳川幕府が中国から招いた隠元禅師が宇治の黄檗に寺

萬福寺の総門

を開きたいと望まれました。その黄檗の土地の所有者は近衛家だったので、この伊丹の土地と換地しました。」と学びました。

その時、若い頃に友と黄檗山萬福寺を訪ねた時のことが想い出されました。当時の寺の僧から、隠元禅師は寺を開くべき土地を探して幾日も旅をしていました。ある日一休みしていた時、向こうの丘に鶴が大空から飛んできました。丘に降り立った二羽の鶴は優雅に舞い始めました。この様子を見ていた隠元禅師の一行は「ここだ。この丘に寺を開きたい。」と徳川幕府に願い出たと聞いていました。伊丹郷町が近衛家の所有になったのは、このようないきさつだったのか。異国情緒豊かな黄檗山萬福寺が懐かしく思い出されました。

今年の春、萬福寺で普茶料理をいただく機会がありました。食後に寺の僧による萬福寺の案内がありました。いろいろなお話の中で一番心を打たれたのは治政者の心でした。

長く続いた戦国の世で人心が乱れている。世人の心の乱れを癒すため、後水尾法皇や徳川四代将軍家綱公の尊崇を得て、中国福建省から隠元禅師を招きました。その折の隠元禅師の条件は一つ、「中国福建省の寺と同じ大きさの寺を日本にも創ること。」だったそうです。

既に禅宗の臨済宗も曹洞宗も日本にありましたが、宗教により世の乱れを正したいと願う徳川幕府の民を思う心に触れた思いがしました。

宇治市に隣接する京都の伏見育ちの私は、黄檗山萬福寺は大きな布袋さんや、十八羅漢、魚梆（かいぱん）など、何度か参拝した印象深いお寺です。小学生の頃の五月の連休のある日、遊びに来ていた祖母を母が萬福寺に案内するのに一緒に行きました。京阪黄檗駅から萬福寺周辺は茶畑が続いていました。不意に鶯が間近で鳴き驚きました。日除けに当時は稲わらで茶畑を覆っていました。その中で鶯は鳴いているようでした。お寺に着くまで茶畑の鶯の鳴き声を楽しみながら歩きました。のちに菊舎尼の俳句「山門を　出れば日本ぞ　茶摘み唄」を知り、まさにこの情景だったと思いました。半世紀余り経ち寒冷紗で覆った茶畑も、黄檗周辺ではあまり見かけなくなりました。現在は住宅が建ち並んでおります。

隠元禅師

第１回　阪急・阪神沿線観光あるき

伊丹郷町と富士山蔵見学

秋風が心地いい10月13日(木)朝、33名の参加者とともに阪急伊丹駅を出発しました。

「三軒寺前広場」は、今年度の「まちなか広場賞・特別賞」を受賞しています。周辺は数百年の歴史を残しつつ、現在は市民の憩いの場所でもあり、フリーマーケットや伊丹郷町屋台村など数々のイベント会場として活用されています。

「みやのまえ文化の郷」の日本庭園には、今年も台柿が実っています。頼山陽が箕面の紅葉狩りの帰りに、伊丹の酒と熟した台柿に舌鼓を打った話を思い出します。

有岡城址でガイド

お酒といえば、まちあるきの最後には『山は富士なら酒は白雪』でお馴染みの、「小西酒造・富士山蔵」の工場見学です。「有岡城跡」あたりから参加者の皆さんの表情が、心持ちウキウキしていたような・・・。

最後のお楽しみ“試飲”

工場見学の最後にはお酒の試飲もあり、史跡を巡った後の一杯は、さぞかし趣のあるものだったことでしょう。　（藤原　記）

＊次回は3月4日（土）に予定されています

岩佐又兵衛を訪ねて

『北陸探訪・道の記』

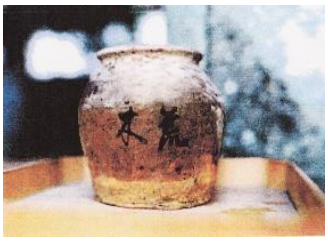
柴田　博

岩佐又兵衛の墓

福井県立美術館特別展で開催中の「福井移住400年記念岩佐又兵衛展」を鑑賞する目的で、今回のツアーが実施された。この特別展こそ、待望の又兵衛と彼の工房の真筆が直に鑑賞できると、期待に胸躍る思いで車中の人となる。

08：00 長寿蔵を出発、名神、北陸自動車道を通り、途中少々渋滞に見舞われ乍ら割合順調に 11：20 最初の目的地、又兵衛所縁の浄土真宗本願寺派　興宗寺着。御住職から又兵衛と本願寺執事心願との出会い、福井に於ける又兵衛の在り様などを、縷々お話し戴いた。

なかでも岩佐家墓碑移転の際発見の骨壺の「荒木」銘が水に濡れたときだけに現れる現象は、釉薬の掛け方を薄くした為、普段は表面の凹凸で光が乱反射して銘は見えないが、水に濡れると平滑になり銘が浮き出てくると云う。これは荒木銘をわざと秘匿する為であろう。興味深い話であった。



又兵衛の骨壷

長時間の移動の疲れを「越前つるぎそば」の名物料理で癒し、筋向いの「柴田神社」（北ノ庄城址）へ、柴田勝家の武骨な銅像が睨んでいなかったら、城址の石垣も見落としかねない。これが北ノ庄城址かと思うほど目立たぬ史跡で、兵どもの夢の跡というには、なぜかもの悲しさを覚え有岡城に共通の敗者の歴史

の悲哀をつくづく知らされた思いである。

14：15 最終目的地「福井美術館」へ到着。『岩佐又兵衛展』の館内を期待に胸膨らませ乍ら夢中で巡る。出展品 40 点の内、21 点が、国内有数の美術館等に所蔵されている国宝、重要文化財、重要美術品、県、市指定文化財で、これらが一堂に会するという、今後この様な機会は望めそうにない程豪華版である。

散逸している「旧金谷屏風」の集合再会、そして「山中常盤、堀江、小栗判官浄瑠璃の四大物語絵巻」や、今年国宝に指定されたばかりの、舟木本「洛中洛外図屏風」の実物を食い入るように鑑賞した。

長大な絵巻物、圧倒される大きな屏風絵。まず感動したのは、髪の毛程の、繊細な筆遣いと、何百年変わらぬ岩絵の具の輝くような色彩で,所謂、又兵衛風と云われる豊頬長頤、特徴ある指先、躍動する人々の動きなど、矢張り実物の迫力であった。そして、一番印象に残ったのは色彩の中でも凄惨な場面の血の色が、同じ赤でも全く違う、独特の陰影のある色の生々しさに、又兵衛が一生抱き続けた怨念の深さを見たような気がした。

その他、本や図録でしか見たこともない名作を鑑賞し、この上なく満ち足りた感傷を残して美術館を後にした。おまけに、結城秀康の福井城址を周り、夕闇迫る伊丹に無事帰着した。明治以降数々の論争を経て、近年その価値が認められる様になった又兵衛の工房の作品が、もっと多くの人たちに鑑賞され、理解して貰える事を祈るばかりである。

＜行基会資料　６＞

伊丹と行基

1 奈良時代における伊丹地方(昆陽野)の行基活動の地理的特徴

行基が猪名野一帯を布教と池溝開発・布施屋設置の拠点とした地理的特徴は下記のとおり。

(1)当時の伊丹地域は畿内摂津国の西方にあり平城京から遠隔地で朝廷の干渉が及びにくかった。

(2)猪名川と武庫川に挟まれた伊丹台地は両川より高い位置にあり、水利が極めて劣悪な状況にあり、荒れ地であった。

(3)平城京から九州大宰府へ抜ける山陽道沿いに位置し、旅人の往来が多かった。

(4)渡来系の猪名部氏が三重方面に移住するまで定住し、土木技術の情報があった。

(5)この地区に伊丹廃寺跡、猪名寺廃寺跡が見られ、知識をまとめ動員できる有力な豪族がいた。

2 歴史資料から見た行基の事跡

(1)『行基年譜』

崑陽施院　天平 3 年行基 64 歳　河邊郡山本村

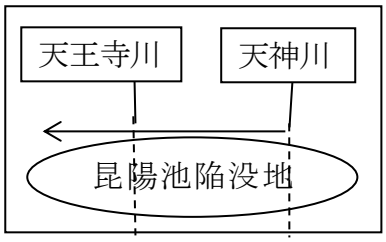
所在した場所は不明。施院であることから小規模な道場のようなもので近辺の農民救済に当たったと想定され、早い時期に朽ち果てたと考えられる。池を管理する池院の誤記説もある。また伊丹廃寺が該当する説もあるが白鳳時代に建立され、法隆寺式伽藍様式の廃寺とは相容れない。現在の昆陽寺は江戸時代初期以降に建てられたものである。

崐陽上池　同下池　院前池　中布施屋池　長江池の５ヶ池　何れも河邊郡山本里に在り

元々陥没地帯で滞水池を活かして改築したのが実態であろう。現在の昆陽池が昆陽上池と考えられ、昆陽下池は西野から池尻あたりに在ったが江戸時代初期に埋め立てられたとされている。その他の池の所在した場所等は不明であるが、昆陽池陥没地帯に位置していたと考えられる。

崐陽上溝(長 1200 丈　広 6 尺　深 4 尺)**同下池溝**(長 1200 丈　広 6 尺　深 6 尺)　何れも河邊郡山本里に在り　上溝、下池溝に該当するものに 2 説ある。その一説が治水・取水のための天神川と天王寺川説であり、他説は昆陽上池・下池からの多数の灌漑用水路を総称したものとする。

天神川・天王寺川は考古学的に古代には何れも北から昆陽池陥没帯を超えて南下していたのを人工的に昆陽上池・下池手前で武庫川方向へ直角に曲げる工事がなされたと見られている。また 2 つの川筋も人工的な改修跡、築堤跡が見られ、結局昆陽池陥没地帯の造池工事に合わせて天神川・天王寺川の治水・取水改修工事と南部への用水路工事が行われたと見るべきであろう。



崐陽布施屋　河邊郡崐陽里に在り 行基が建てた 9 布施屋の 1 つで山陽道沿いに位置し往来する農民の救済に当たった。この地に後の昆陽寺が建てられたのであろう。

給孤独園　天平 13 年（741）聖武天皇が山城国泉橋院で行基と会見した際、行基に猪名野の荒れ地を与え「給孤独園」とすることを許した。「給孤独園」は釈迦が説法した遺跡の名称であるが身寄りのない収容施設の名称として使われている。

(2)『日本後紀』

惸独田（けいどくでん）弘仁 3 年(812)8 月条には行基が設置した摂津国の「惸独田」150 町を国司に耕種させて、収穫を太政官に報告し、官の指令を以て用いさせる勅が載せられている。「惸独」は子を亡くした親と親を亡くした子を指し、これら社会的に弱い立場の人々を救済するためにこの田の収穫を充てたと考えられる。

3 行基創建伝承のある寺院

昆陽寺　寺本　高野山真言宗　崑陽施院の系譜の寺院

縁起は鎌倉時代の『古今著問集』により行基創建としている。行基が有馬温泉に行く途中病人に化身した薬師如来を救済し発願して薬師如来を安置したのが始まりとなっている。

昆陽寺のことが平安時代の「志多羅神事件」に児屋寺で登場し『今昔物語』にも小屋寺が載っていることから平安時代には存在していたと考えられる。

鎌倉時代、この辺り一帯は高野山安養院領であり、昆陽寺はその荘園の管理をしていた。この辺りは昆陽の庄と名づけられ、室町時代に足利尊氏の安堵を受けている。

その後度々災火の難にあい殊に天正 7 年(1579)織田信長が荒木村重を攻略したとき兵火にかかり堂塔伽藍が灰塵に帰した(昆陽寺略縁起)。

現在の昆陽寺は江戸時代初期に再建され、本堂(薬師堂・平成 9 年再建)、観音堂(寛永 3 年(1626) 建立)、行基堂(元禄 14 年(1701)建立)、山門(17 世紀後半建立)、鐘楼(4 代目宝暦 10 年(1760)建立)などがある。うち観音堂、山門、行基堂内の平安時代の広目天・多聞天が兵庫県有形文化財に指定されている。下記の 4 ヶ寺の塔頭がある。

正覚院　寺本　高野山真言宗　昆陽寺塔頭
成就院　〃　〃　〃
遍照院　〃　〃　〃
一乗院　〃　〃　〃

安楽院　千僧　真言宗御室派　縁起によれば和銅 6 年創建で聖武天皇勅願となっている。昔は 7 堂伽藍を備えた古刹であったと伝わる。行基が昆陽池を築造したとき願成就寺と号し、千人の僧侶による大法要が営まれ、この辺りの地名を千僧と称するように至ったとある。

大空寺　野間　真言宗御室派　聖武天皇のとき行基により創建された寺と伝わる。

法巌寺　伊丹中央　浄土宗　もとは昆陽寺の塔頭昆陽院であった。荒木村重の勧請により現在地に移ったとされている。西国街道昆陽宿の近くの跡地に標識と小さなお堂がある。

了福寺　南野　浄土宗　天平年間（729～749）行基が昆陽池その他の池を造るため道場として建てたと伝わる

妙宣寺　大鹿　法華宗本門派　もとは真言宗

の寺で行基伝承がある。

4　行基創建伝承のある神社

須佐男神社　御願塚　天平年間に行基が御願塚で猪名野開拓の完遂を祈願したのが鎮祭の始まりとされている。

天神社　千僧　和銅 6 年(713)行基が猪名野権現を祀り、猪名野開拓を祈願したのが始まりとされている。

東天神社・西天神社　昆陽　天平年間に行基が昆陽池開拓のとき事業達成の祈願をしたのが始まりとされている。

5　行基町

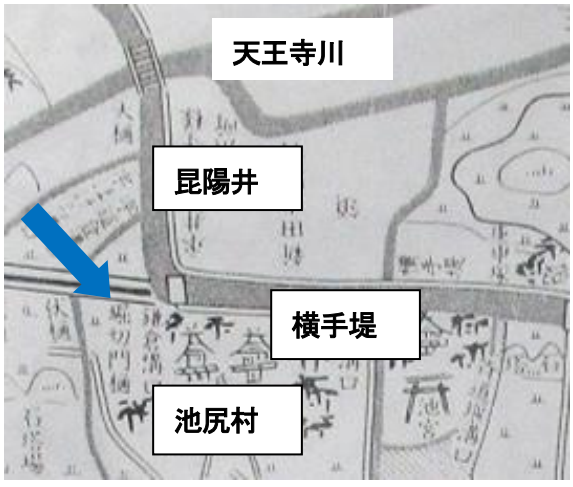
行基の威徳を偲んで今なお町名が残されている。元々この辺りは行基田と呼ばれていた。

以上伊丹市内には昆陽寺・昆陽池を始め多くの行基伝承の歴史・文化遺産が継承されている。これ等により行基の威徳を身近に偲ぶことができるが、同時に行基が唱えた他利行布教精神と弱者救済事業が今日的課題として脈々と過去・現在・未来へと語り継がれることを願うものである。

[町の小さな文化財　第 10 回]

池尻村　堀切門樋跡

昆陽井は武庫川から取水、昆陽・寺本・池尻以下9ヶ村の灌漑用に設置された用水路である。



伊丹古絵図集成　明治二年池尻村絵図より

昆陽井は天王寺川を大樋で横断、堤に沿って南下する。しかし堤(横手堤)は池尻村の手前で左に折れ、村の北側を東西方向に築かれている。

井筋を村内に導くには横手堤を横断する必要があり、堤に暗渠と樋門が設けられた。古地図に「堀切門樋」の記載がある。

今年春、昆陽井を横断する個所の歩道が拡幅整備され、写真の矢印部に以前堀切門樋があったことを示す「池尻村　堀切門樋跡」の銘板が設置された。

昔に比べて水路沿線の耕作地がすっかり少なくなった今も、水路には水量豊かに用水が流れている。　　＜松田　記＞

京・アラカルト　④

焼けて口開く蛤御門

池田　利男

新在家口御門（蛤御門）

新在家口御門

現在の京都御所は、総面積 66 ㌶、周囲 4 ㎞、北朝の後光厳天皇の里内裏であり、以後明

治維新までの５世紀半の間、正式の皇居となったものである。（内裏が火災にあうと、天皇は臣下の私邸を仮御所として移った。それを里内裏と言う）平安京になってより千年間に内裏の焼失が 50 回あったと言われている。

宝永５年(1708)3 月 8 日、京の都は大火に見舞われて、京都御所も全焼した。火災の後、外回りの築地に新しい門が３つ増えたが、新在家口御門は、火の後で開いた事から、「焼けて口開く蛤御門」と言われた。

元治元年(1864)の「禁門の戦い」で、長州兵の猛攻を受けて、今も柱に弾痕をとどめている。

門柱の弾痕

京都迎賓館を見学して

酒井　かづえ

京都迎賓館

猛暑の 8 月に伝統文化の粋を極めた“京都迎賓館”を訪ね、噂に勝る匠のわざを見聞しました。京都に平安京が出来て 1200 年になるのを記念し、海外からの賓客をお迎えし日本への理解と友好を深めていただくことを目的に、平成 17 年 4 月にオープンしました。四つの公用室の見どころを紹介します。

① 聚楽（じゅらく）の間

京指物の技能と有職織を用いた安楽椅子が並ぶロビーです。

② 夕映えの間

東西の壁面は日本画家箱崎睦昌（はこざきむつまさ）氏の下絵を基に製作された綴れ織り。東側は比叡山を月が照らす様を、西側は愛宕山に夕日が沈む様を表現。大臣会合の会議場や賓客の歓迎会場として使用しています。

③ 藤の間

京都迎賓館で最も大きな部屋で、洋食の晩さん会場です。壁面装飾は鹿見喜陌（しかみきみち）氏の下絵を基に「麗花」のモチーフで（縦 3.1m横 16.6m ）製作。舞台があり、能・日本舞踊・琴の演奏・雅楽などが披露されて、賓客に紹介しています。舞台扉のキリガネ細工（純金箔とプラチナを焼き合わせて貼りつけたもの）に目をうばわれました。

④桐の間

和食を提供する「和の晩餐室」で、京料理のおもてなしをします。釘隠しや襖の唐紙に「五七の桐」が見られ、これは日本国政府と京都迎賓館の紋章として使用されているものです。

その他　玄関は千利休が茶の湯を通じて広めた入母屋造りの屋根と数寄屋造りという和

の匠で整えられ、正面扉は樹齢 700 年のけやきの一枚板を使用しています。
庭園は深山幽谷から流れ出る水の注ぎこむ広大な池が、まわりの建物に融け合うよう配置されています。

入場の前に金属探知機を通り、カメラ以外はロッカーに預けてから見学に入りました。伝統的技能の実物は並んでいるだけで、その価値が感じられるものです。その日は京都で培われた「しつらい」と「もてなし」の心とともに、日本文化の最高峰に出会うことができ、とても感動した一日でした。

どんぐり座夏休み公演

今年も夏休み期間の 8 月 24 日（水）～26 日（金）の 3 日間、ことば蔵に於いて朝 9 時 30 分から始まる体操の後で、紙芝居が各日一題上演されました。

三軒寺の砂かけ狸

演題は　24 日　三軒寺の砂かけ狸
　　25 日　法巌寺の大きなクスノキ
　　26 日　伊丹に猿がいなくなった話
各日約 50 名の観客がありました。

（山田　記）

活動記録（8月～１０月）

定例会　・8/9（火）　・9/13（火）　・10/11（火）

案内ガイド　・8/21(日)A コース（伊丹市友会　伊丹市）・9/4(日)A コース（歴史街道倶楽部F　神戸市）・9/21（水）郷町館（交野市教育委員会　交野市）・9/25（日）B コース（市民ガイド）・9/26(月)A コース（ことぶき大学旅行クラブ　播磨町）・9/28（水）郷町館（神戸新聞旅行社　神戸市）・10/6（木）E コース（新日本婦人の会宝塚支部　宝塚市）・10/8（土）A コース（兵庫県建築士会青年委員会　兵庫県）・10/12（水）師直塚（FTS フレンドリークラブ　箕面市）・10/13(木)郷町+酒蔵（阪急・阪神観光あるき）・10/14（金）A+B コース（シニア自然大学校インプリ科　大阪市）・10/18（火）A コース（歴史探訪の会　芦屋市）・10/24（月）A コース（大阪区民カレッジ北校）・10/27（木）F コース（兵庫県歩け歩け協会）

どんぐり座公演
・8/24（水）～26 日（金）ことば蔵

歴史ロマン体験学習支援
・8/20(土)印鑑をつくろう
・9/10（土）印鑑をつくろう（ケース）
・10/15（土）楽器をつくろう

有岡城跡の清掃　・8/23（火）・9/27（火）・10/25（火）

今後の予定（１１月～１月）

定例会　11/8（火）　・12/13（火）　・1/17（火）新年会

案内ガイド　・11/6（土）神津地区（ロマン事業史跡めぐり）11/16（水）A コース（西宮市友会　西宮市）・11/17(木)郷町館（レフネック PC 楽研　川西市）・11/20（日）岡田家（尼崎市退職校長会　尼崎市）・A コース（大翔短風会　豊中市）・11/23（水）御願塚他（第3回市民ガイド）

歴史ロマン体験学習支援
・11/12(土) ブレスレットをつくろう ・1/14(土)ガラス玉をつくろう

有岡城跡の清掃　・11/26（土）・12/27（火）・1/24（火）

編集後記

新聞、テレビではあまり楽しくない話題で盛り上がっていますが、季節は人間社会の都合に関係なく進んで、朝晩めっきり涼しくなりました。季節の変わり目には、体調を崩しがちです。皆さま体調管理をしっかりと来るべき冬に備えましょう。　（M.Y.）